市民協働を推進するための課題と対策

地域名　栃木県さくら市
パートナー名　さくら市役所
総合政策部総合政策課 市民活躍推進係

23班　コミュニティデザイン学　大森悠司　原楓
建築都市デザイン学科　大嶋和樹
社会基盤デザイン学科　浦橋誠　加藤俊紀

背景

さくら市 は「まちづくりに取り組む地域コミュニティや市民団体・NPO等について、その主体的な活動を支援し、市民との協働を推進すること」を目標としている。

しかし、さくら市内に存在する市民団体やボランティア団体・NPO法人の多くが後継者不足や資金不足という問題を抱え、新たな活動を行えずにいる。また、既存のメンバーで活動が行われているため、若者に魅力ある活動を行うことができず、新たな参加者を獲得することにも繋げることができない。後継者育成のための活動、視点が必要。

人手不足→メンバーの固定化→活動の限定化→若者へのアピール不足→人材不足

という負のスパイラルを脱し、新たな参加者の獲得・後継者の育成を進めたい。

目的

背景を踏まえ問題を解決するためにはどうすればよいか。

調査を行う上で市民協働活動の参加者は以下の図のように分類できると考え、それぞれの参加者を以下のように仮定をした。

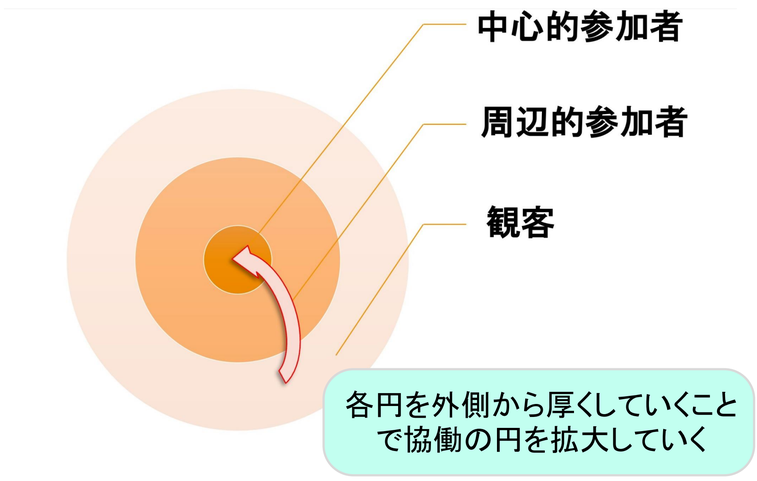


図1 協働活動参加者の分類

・実行委員や、コンスタントに活動へ参加し協働の中心的役割を担う参加者を中心的参加者。
・協働活動への参加は散発的であったり、中心的参加者に追従する参加者を周辺的参加者。
・協働活動には直接関与せず、外部から活動を見ている市民を観客。

これらの市民活動への参加者の層を外側から徐々に厚くしていき、周辺的、中心的参加者の層を増やすことによって市民活動は活性化するだろうと考え、それを実行するための方法を調査によって明らかにし、プロジェクトパートナーや市民活動団体に、市民協働を推進するための方法を提案することを目的とした。

方法

当初は、さくら市喜連川地区で開催される「きつれ川きつねの嫁入り実行委員会」に準備段階から当日の運営に参加することで、調査を行う予定であった。しかし、班の話し合いの結果、複数の団体で調査を行うことでより調査の質が高まるとの結論に至ったため、「きつれ川きつねの嫁入り実行委員会」と「にわのひハロウィン×ぼうじぼう」の２団体で調査を行うこととした。調査方法は以下の通り。

・きつれ川きつねの嫁入り実行委員会

観客・参加者をより中心へと引き込むための案を生み出すことを目的とし
①実行委員会に参加し、中心的参加者の活動内容を明確にする。
②イベント当日では、周辺的参加者にアンケート調査と聞き込み調査を行う。

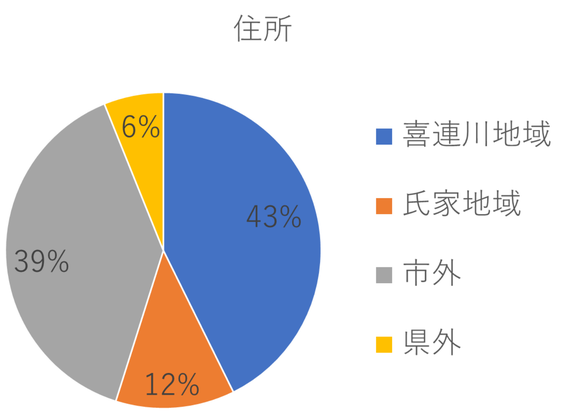
・にわのひハロウィン×ぼうじぼう

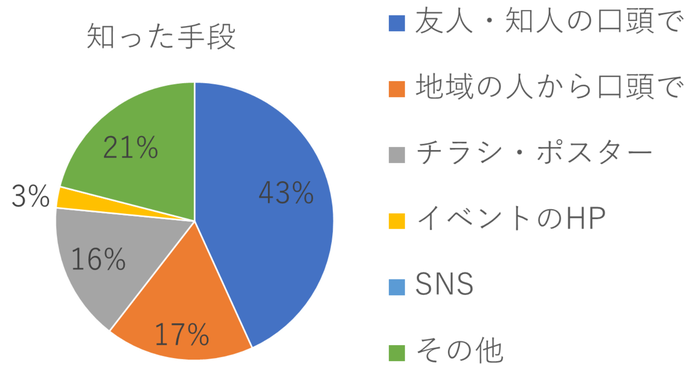
周辺的参加者の活動目的や情報を得ることを目的に、
①イベント当日に周辺的参加者として参加する。
②参加者にアンケート調査を行う。

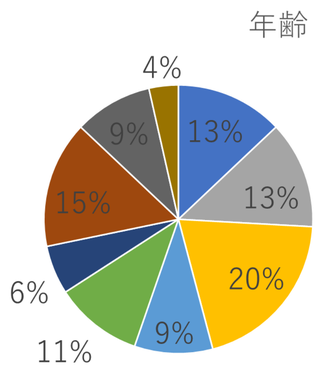
↑写真1　→写真2
アンケート調査の様子

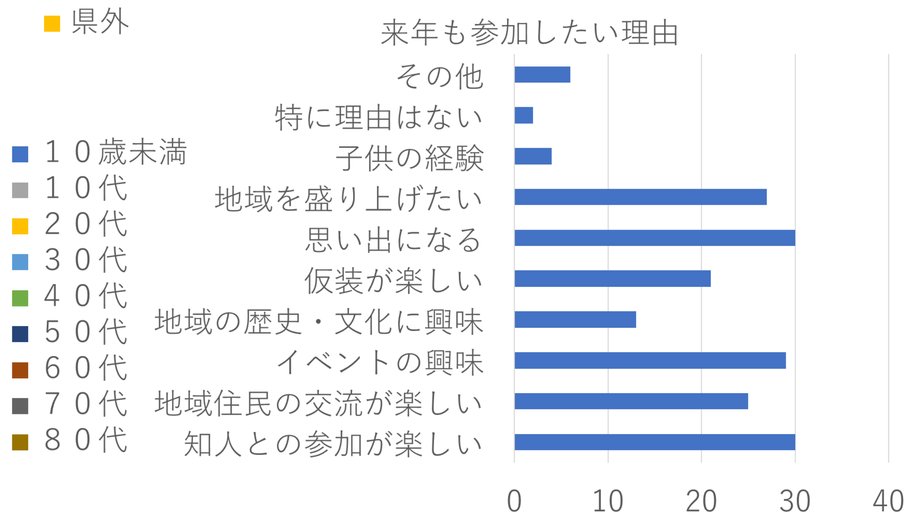
分析結果

・きつねの嫁入りアンケート結果

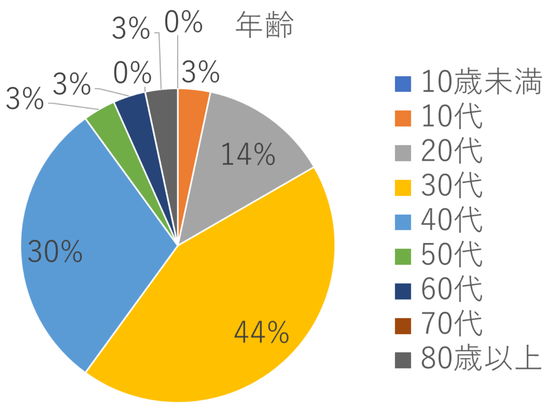


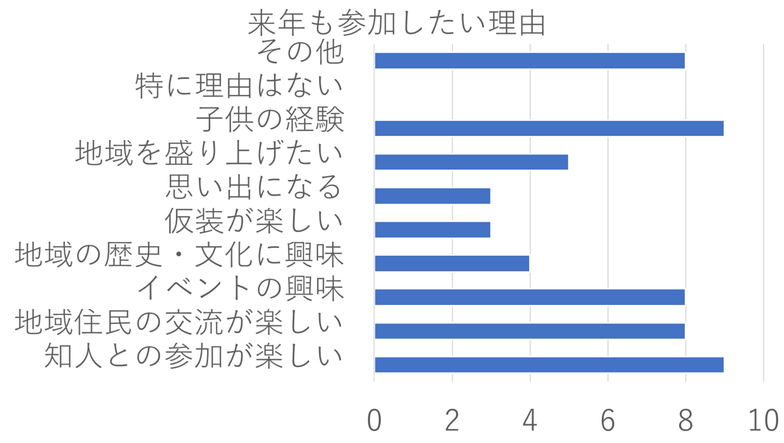






・庭の日アンケート結果





提案

・アクセス

交通手段が車しかないため、車を持ってない人が参加しづらい。最寄り駅からの送迎バスを設けるなどの対応が必要である。

イベントの規模が大きくなれば、市営の交通網が整備される可能性も考えられる。

・宣伝

口頭での宣伝には限界があるため、地元の新聞での広告を強化する必要がある。

若者向けの宣伝として、ホームページやSNSの整備をする。また、若年層参加者にSNSで情報拡散してもらうことで、若者の間の認知度を高めることが出来る。

結婚式や仮装などの要素を強調することで、他のイベントとの差別化を図るような宣伝内容にする。

・内容

発足してまだ日が浅いことから、日程、プログラムの効率などで体系化しきれていない部分が見受けられた。参考事例を見つけ狐の嫁入りに応用したり、毎年の活動によってより良い仕組みを模索していく必要がある。

例えば、この活動と地域の小学校を結びつけ、小学生をメインステージに出演させることで、参加者の家族の参加率が高まると予想される。更に、小学生のうちからこのような地域の活動に参加することで、地域の一員としての自覚を促し、将来的にイベントの運営に携わることで、イベント運営者の高齢化と人員不足の阻止が期待できる。